



小中学校の英語教育！

グローバル化の進展の中、英語によるコミュニケーション能力は、子どもたちにとって、生涯にわたって必要な力になりつつあります。

このような中、平成32年度から小学校、平成33年度から中学校において、新学習指導要領が全面実施となり、小学校における英語教育の早期化・教科化が特徴となっています。

Q1 英語教育は、どのようになりますか？

A1 新学習指導要領では、小学校5年生から教科化された『外国語科』（英語科）が導入され、小学校3年生から「聞く」「話す」中心の『外国語活動』が始まります。また、中学校では、英語で授業を行うことが基本となります。

Q2 3・4年生の『外国語活動』では、何を学びますか？

A2 中学年（3・4年生）では、英語を使って、コミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ったり、英語の発音やリズムに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気づいたりする「聞くこと」、「話すこと」を中心とした『外国語活動』を行います。

- （例）・表情やジェスチャーの大切さなどに気づき、感情や状態を表す語や表現に慣れ親しむ。
- ・様々な挨拶の仕方があることに気づき、様々な挨拶の言い方に慣れ親しむ。

Q3 5・6年生の教科としての『外国語科』（英語科）では、何を学びますか？

A3 中学年（3・4年生）では、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした外国語活動を通じて外国語（英語）に親しみ、外国語学習への動機づけを高めた上で、高学年（5・6年生）から発達段階に応じて段階的に「読むこと」「書くこと」を加え教科としての学習を行います。

- （例）・季節や誕生日の言い方、誕生日の尋ね方や答え方が分かる。
- ・好きな物や欲しい物について尋ねたり答えたりする表現が分かる。
- ・自己紹介に関する表現や、文字の音が分かり、発音する。
- ・好きなことやできることについて、基本的な表現を読んだり、簡単な語句を書き写したりする。

Q4 5・6年生は、中学校の内容が前倒しされるのですか？

A4 新学習指導要領では、『外国語活動』が小学校の高学年から中学年へ、高学年は中学校の内容が前倒しされたかのような印象を受けますが、そうではありません。特に、高学年に導入される「読むこと」「書くこと」は慣れ親しませる段階であり、文構造や語順等については、コミュニケーション活動を通して気づきを促すことが大切であり、文法的な説明等優先させることではありません。



Q5 小学校での英語教育は、具体的にどのように展開されますか？

A5 小学校では現在、英語の「聞く」「話す」中心の『外国語活動』を5・6年生で、年間35単位時間実施していますが、平成32年度から実施される新学習指導要領では、3・4年生で『外国語活動』を年間35単位時間実施します。また、5・6年生は、教科としての『外国語科』を年間70単位時間実施することとなります。

Q6 津市では、平成30年度から先行実施されるというのは本当ですか？

A6 本当です。津市では、平成30・31年度を移行期間として、平成32年度の新学習指導要領の本格実施に向けて段階的に取り組んでいきます。

平成30年度は、中学年（3・4年生）で年間15単位時間の『外国語活動』、高学年（5・6年生）では、現在実施している『外国語活動』（35単位時間）に加えて年間15単位時間の『外国語科』（英語科）を実施する予定です。

また、平成31年度からは、平成32年度と同様、中学年（3・4年生）で年間35単位時間の『外国語活動』、高学年（5・6年生）では、年間70単位時間の『外国語科』（英語科）を実施する予定です。

なお、平成30年度の時間数や授業内容については、学校の実情によって異なるため、この限りではありません。



Q7 英語の教科書はあるのですか？

A7 中学年（3・4年生）の『外国語活動』及び高学年（5・6年生）の『外国語科』について、移行期間（平成30・31年度）に先行実施する際に使用する教材が文部科学省から平成29年度中に配付される予定です。また、新学習指導要領が本格実施される年度（小学校は平成32年度、中学校は平成33年度から）からは、『外国語科』（英語科）については、新しく採択された教科書を使って学習します。

Q8 評価はどうなりますか？

A8 平成30・31年度の移行期間に実施される、中学年（3・4年生）の『外国語活動』、高学年（5・6年生）の『外国語活動』及び『外国語科』（英語科）については、学習に関する所見を文章で記述し、数値による評価は行わないものとするのが、文部科学省より通知されています。小学校で新学習指導要領が本格実施される平成32年度からの評価については、現在検討中です。

Q9 中学校の『英語科』は、どのように展開されますか？

A9 中学校では、新学習指導要領が平成33年度から本格実施となり、授業時間数は、現在と同様、年間140単位時間です。生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場とするため、授業は英語で行うことを基本とします。また、外国語による「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり伝え合ったりするコミュニケーション力を育成します。